

| ラボタイムズプラス | 学生による学生の為の地域活動誌

# Lab.Times<sup>+</sup> vol.9

421Lab. 10th ANNIVERSARY



# 421Lab. 10th ANNIVERSARY

421Lab.  
北九州市立大学 地域共生教育センター  
Regional Symbiosis Education Center

北九州市立大学 地域共生教育センター  
通称 421Lab. は 2020 年 4 月、  
設立 10 周年を迎えました。  
「Lab.Times +」 vol.9 では  
421Lab. の 10 年間を、  
様々なデータや歴代学生運営スタッフの  
貴重な声をもとに振り返ります。



No.1

## 特集 1

### 421Lab. の 歴史

①4つのデータで見る  
421Lab.  
(P4～)

②421Lab.の歴史  
2010～2020  
(P6～)



## 特集 2

### 学生運営 スタッフ の 仕事

①学生運営スタッフの  
仕事  
(P8～)

②年間スケジュール  
(P10～)

No.2



## 特集 3

### 歴代学生 運営スタッフ に きく

①2020年度  
学生運営スタッフ編  
(P12～)

②歴代リーダー編  
**必読!** (P15～)

③先生方からの  
メッセージ  
(P20～)

No.3

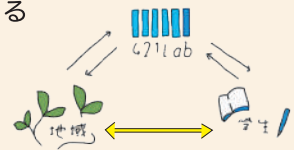
# 特集 1 / 421Lab. の 歴史

2010年に421Lab.が開設されてから10年間、421Lab.は様々な活動を行ってきました。どんな歴史を辿ってきたのか、特集1では421Lab.の姿を過去のデータからみていきます。



## 421Lab. とは？

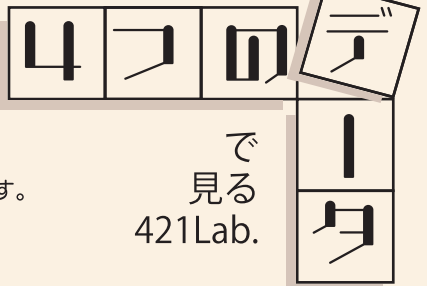
421Lab. は、北九州市立大学地域共生教育センターの通称名です。学生の地域活動のサポートを通じて持続可能な地域の発展と、次世代を担う人材育成に取り組んでいます。活動のフィールドを地域とし、学生がそこにある課題に取り組むことで、地域と大学がともに成長していく社会づくりを進めています。



## データ 1

プロジェクト活動学生 学部別割合 1~3年生  
(2015年 → 2020年)

421Lab. で活動している学生を学部別にみると、全学部の学生が地域活動に関わっていることがわかります。



で  
見る  
421Lab.



外国語学部

25% (54人)

→18% (67人)



経済学部

16% (34人)

→21% (81人)



法学部

18% (39人)

→32% (120人)



文学部

20% (44人)

→19% (73人)



地域創生学群

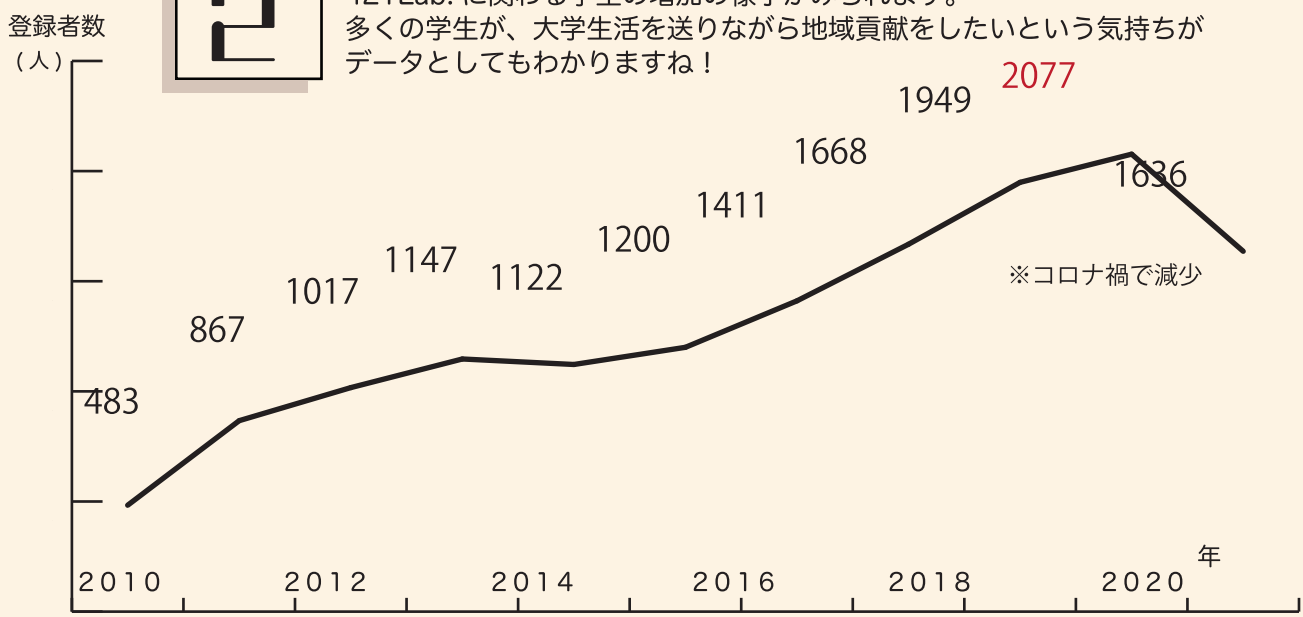
21% (36人)

→10% (45人)

データ  
**2**

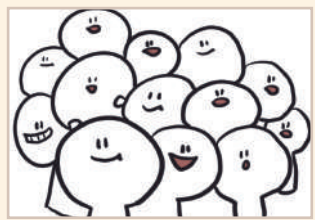
メーリングリスト登録者数 (2010年～2020年)

421Lab. に関わる学生の増加の様子がみられます。  
多くの学生が、大学生活を送りながら地域貢献をしたいという気持ちが  
データとしてもわかりますね！



データ  
**3**

421Lab. で1年間プロジェクト活動を行っている学生の人数



最多  
**523人**  
(2019年)  
平均  
**369人**

- ・クリーンアップ pj
- ・FIVA
- ・子ども食堂 pj
- ・ブンガク pj
- ・平和の駅 pj など



平均 **18**  
プロジェクト

データ  
**4**

1年間に動いているプロジェクト

～用語解説～

【メーリングリスト】  
登録すると地域活動の募集メールなどが届く仕組みになっています。

【学生プロジェクト】

1年間のサイクルで地域活動を行っています。  
プロジェクトには長いものだと5年以上の歴史をもつものもあります。(プロジェクト=pj)

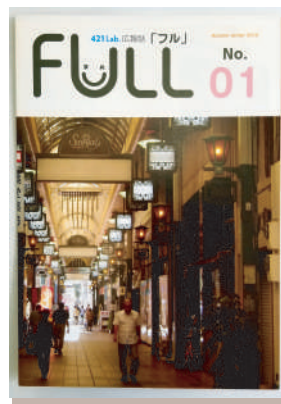
# 421Lab. の歴史 (2010~2020)

421Lab. の開設から 10 年を年表で振り返っていきます。

2010



- 4月21日 421Lab. 開設
- 9月 第2回北九州学生プレゼン大会  
「会頭賞」(最高賞) 受賞  
広報誌「FULL」創刊



2011



- 3月11日 東日本大震災が発生



2012



- 3月 ふくおか共助社会づくり表彰 (福岡県)  
地域貢献活動部門賞を受賞  
メーリングリスト登録者数 1000 人突破

2013



2016



- 1月23日 第3回地域活動発表会
- 4月14日 熊本地震が発生
- 10月8～10日 全国公立大学学生大会 LINKtopos2016 運営
- 11月27日 ふくおか地域づくり活動賞 受賞

2017



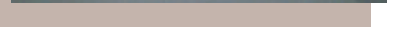
- 2月14日 第4回地域活動発表会
- 7月5日 九州北部豪雨が発生



2018



- 3月 緊急災害支援チーム  
「福岡防災（知事表彰）」受賞
- 12月25日 ふくおか共助社会づくり表彰（福岡県）  
地域貢献活動部門賞を受賞



2019



メーリングリスト登録者 2000人突破



2020



- 4月21日 421Lab. 開設 10周年





## 学生運営スタッフ <sup>特集2</sup> の 仕事

特集2では421Lab.を運営する学生が普段どんなことをしているのか、  
どんな組織なのかを紹介していきます。

地域と学生の架け橋

### 学生運営スタッフとは

多くの北九大生に地域活動を通して貴重な学びを得てもらうため、地域活動の魅力を発信し、活動しやすい環境を整えることを行なっています。

地域活動をする学生に対し、より充実した学びを得てもらうためのサポートを行うと同時に、畝位のスタッフも地域に出て、地域の皆さんと一緒に活動しています。





# 学生運営スタッフの仕事

学生運営スタッフは1~3年生の3学年によって構成されています。

2020年では北九大大生の地域活動をサポートするために3つのグループに分かれて活動しています。

~2019年

## アシスト班



421Lab. に入ってくれた  
学生のサポート



## 広報班

広報誌やSNSで、学内外に  
421Lab. の宣伝や  
情報、魅力を発信



## 企画・発信班

様々な企画を通して  
学内外に421Lab. の  
魅力や情報を伝える

2020年~

## PJ 支援グループ

421Lab. に所属する学生が  
日々の活動をよりスムーズに  
行えるようにサポートをします

## Lab. 支援グループ

421Lab. での活動を広報物や研修、  
オープンキャンパスなどを通して  
広報をします

## 大学地域支援グループ

421Lab. と大学、地域のより深い  
繋がりを築くことを目的に活動を  
します

※2020年度活動内容

4月	5月	6月	7月	8月	9月
コラボ動画企画		パワーポイント 講座			プロジェクト 交流研修
	1・2年生向け 勉強会		YouTube 企画	エクセル講座	
	プロジェクト交流研修		オープンキャンパス 動画作成		
	運営向けスタートアップ 研修				

## 学生運営スタッフ

# 2020年度 年間スケジュール

### 大学地域支援グループ

→いきいき子ども講座

5月～12月

：毎月1回（約2時間程度）、  
北方市民センターで実施。

毎月開催される小学1年～6年を対象とした  
いきいき子供講座に参加する子どもたちの  
お手伝い（サポート）を行いながら  
子どもたちと交流します。



### Lab. 支援グループ

4月～3月

→「Lab.Times.+」

：学生による学生の為の  
地域活動情報誌。

企画、取材からレイアウトデザイン  
までを学生だけで行い発行します。  
今年度は421Lab. 設立10周年と  
いうことで、421Lab. の歴史や学生  
の地域活動（プロジェクト）を  
振り返る記念号を作成しました。



10月	11月	12月	1月	2月	3月
チラシ作成		サザン・ハロハロ クリスマス会		Lab.Times <sup>+</sup> vol.9 (4月～3月)	
	出張ラボ		運営向け振り返り研修	Lab.Times <sup>+</sup> vol.10 (9月～3月)	
1年生向け 動画作成	いきいき子ども講座 (5月～12月)			小学校訪問企画	
		OB・OG会		高校生と オンライン交流会	

学生運営スタッフにはグループの仕事以外にもイベントや活動がたくさん！  
ここでは2020年度の活動を紹介します。

### PJ支援グループ

12月



→OB・OG会

: 421Lab. 学生運営スタッフを卒業した4年生に登壇してもらい、421Lab. での活動を就職活動などにどう活かすことができたのか、また自身の経験を通して今行すべき行動についてヒントやアドバイスをもらいました。

1～3年生は身近なロールモデルとして4年生の話聞き、421Lab. での活動目標や将来のビジョンを見定めることができました。



### 他にもこんな行事も。

#### 青嵐祭

カラフルなかき氷とサイダーで作るラボサイダーを販売。売り上げはラボの様々な企画に使っています！



#### ニューリーダー会

福岡ひびき信用金庫様主催で開かれている会。北九州市の企業で就職を持った方が入会されています。ニューリーダー会では地域貢献活動に力を入れており、今回421Lab.として参加させていただきました。貴重な学びと、繋がりを得ることができました。421Lab.の活動成果の発信の場にもなりました。



今後も頑張っていきます！



# 歴代学生運営スタッフ **に** きく

(2020年10月20日収録)

## 2020年度学生運営スタッフに

### I N T E R V I E W



2018年入学  
役職：副リーダー  
学部：地域創生学群

長坂真帆

2018年入学  
役職：副リーダー  
学部：法学部政策科学科

大西悠登

2018年入学  
役職：リーダー  
学部：地域創生学群

藤野紗江

#### Q1 421Lab. で活動を始めたきっかけは何ですか？

**藤野**：もともと生徒会活動が楽しくて、こういう活動ができればいいなと思って始めました。当時は地域創生学群に入って何がしたいのかまだあまり定かではなかったから、幅広い活動ができるところに魅力を感じて421Lab. 学生運営スタッフ実習を希望したのがきっかけです。

**長坂**：私は最初に実習希望を考えていた時は違う実習を考えていて…。でも、色々な実習の説明を聞いた時に、色々なことができると思いました。プロジェクトも沢山あるし、グループもあるし、地域の人も関わるところに魅力を感じました。自分のやりたいことが決まっていなかったこともあり幅広く活動できる421lab. 学生運営スタッフ実習を選びました。

**大西**：同じ感じですよ！何か新しいことを始めたいなと思っていました。小学3年生から高校3年生までずっと野球しかしてなかったので（笑）。大学でも野球をしようかなと思っていただけ、一人暮らしだし勉強もあるし…。でも、今後社会に出た時に役立つことができればいいなとか、新しいことしたいなあと考えていた時にたまたま出会ったLab. の先輩に勧められたのがきっかけです。

#### プロジェクトとは??

地域の課題解決のために行っている  
学生の地域活動のこと  
主な活動分野は運営スタッフを含め8つ。



## Q2 421Lab. 活動のなかで成長出来たこと、身につけた力は何ですか？

**藤野**：「これをやりたいんだ」という目標を持ったうえで「じゃあなにをすればいいかな？」ってことを考えることができるようになったことです。高校の生徒会では、「体育大会をします。だからこれをやってください」という指示のもと動いていただけでした。でも、PJメンバーに研修を届けるといって活動をしていて、その活動をしていくうえでPJメンバーにどのような力を持ってほしいとか、経験してほしいとか、どんなニーズがあるのかなと考えて、「そのニーズに応えるためには何をすればいいんだろう？」って考えて、指示を待つだけじゃなくて自分から行動を起こせるようになりました。

**長坂**：自分のことに置き換えて考えられるようになった気がします。前までの自分は421Lab.の活動以外にもしたいことがあるし、授業の課題もしないといけないし、421Lab.でこういうことするってなったら誰かが提案してきてくれた企画に対しても「えー、めんどくさい」みたいに思ってしまう部分もあったけど、でも提案してくれた背景にはいろんなことがあって、それぞれ「もっとこうしたら活動がよくなるんじゃないか」とか「現場のためになるんじゃないか」とか、いろんなアイデアがあつての提案だから、他人事じゃなくて自分事に置き換えて物事を見ることができるようになりました。あとは何にでも積極的になりました。「無理じゃない？」って言葉がすごく自分の中で嫌いになった。「やってみなきゃわからないじゃん」って。いまだに考え方は固い部分はあるから、もっと柔軟にはなりたけれど、まずはやってみたくて思うようになったのが成長かなって思います。

**大西**：僕は社会人の方々と接することが多かったので、社会の見方がちょっと変わったと思います。運営側の視点に立って考えられるようになりました。例えば、遊びに行った先とかでも、「あー、このスタッフさん大変そうやな」とか(笑)。今までずっと受け身で来たけれど、これから社会人になっていく中で今度は自分たちが発信していかないといけません。地域の方々と地域421Lab.で接することが多かったからこそ社会人の考え方とか、「こういう感じで大人の方は考えて動いているんだ」ということがちょっとずつだけわかりました。そこは結構成長ですね。

### 運営スタッフのグループ活動で身につけた力は???



## Q3 10年後の421Lab.にどうなって欲しいですか？

**藤野**：今コロナの状況下で1年生の募集に苦労しているわけですが、ひしひしと421Lab.という団体の認知度が低いということを感じさせられています。だから10年後には、北九大生なら当たり前、食堂みたいなレベルで当たり前のように知られている組織になればいいなと思っています。「就活でボランティアしたくない?」「ちょっと時間あるし長期休みにボランティアしたいよね!」「じゃあLab.いこう!」みたいな、そんな感じで気軽に来てもらえる施設になればいいなと思う。

**長坂**：私はもっと学生がやりたいことのできるようになってほしいと思う。「こういうことしたい!」「じゃあやろう!」みたいな。今も学生主体でいろんな企画ができていくけど、もっとできるだろうなって思うし、せっかくするなら「成長したい!」と自分が思うタイプだから、1年間活動を終えた時に「何が成長しましたか?」って聞かれてポンと答えられるような自発力や協調性を高められるところになったらいいなと思う。

**大西**：藤野さんがいつくれたのと同じような感じです。知名度がもう少し上がって、みんなが利用してくれるようなLab.になってくれたらなと思う。

**藤野**：同感です。大学の中の421Lab.の知名度をあげられたらいいなって思います。

## Q4 421Lab. (地域) で活動を行う魅力は何ですか？

**藤野**：自分とは違う学部と関わることだと思う！学ぶ分野、興味がある分野が違う分、価値観も違うから、地域創生学群の人と話している時にはわからなかった価値観とか見方が一緒に活動する中でわかる。そこが魅力だと思います。

**大西**：一番は直接的に現場に関わることじゃないかな？少子高齢化の問題とかゴミ問題、防犯防災とか学校にいと勉強したりするけれど、実際に現場に行くことってほとんどない。だから、そういう現場、地域の問題に直接自分たちが対峙して関われる、そこで直接活動できることが一番魅力だと思う。結果として問題意識が高まったり、それと付随して自分の価値観が広がったりとか人間として高められると思う。

学部・学科関係なく入ることができる！



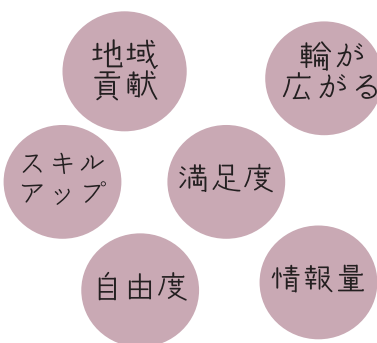
学部生からみたラボ

- ・身に付く力が增える
- ・実践的
- ・学部の内容とは違う視点で考えることも
- ・ラボと学部での内容がつながる
- ・学部で活用・応用できる
- ・他学生より積極的（行動力がある）

詳しくは P4 をチェック！

## 熱くなる 421Lab. の魅力！

- ・人脈が広がる
- ・自分も周りもスキルアップできる
- ・幅広い形で地域の人と関わることができる
- ・学びの機会が多い
- ・学生のサポートができる
- ・地域と身近な存在
- ・誰でも気軽に来れて様々な情報が集まっている
- ・組織がしっかりしている
- ・運営において事務的な仕事も経験できる
- ・学部学群関係なく所属できる
- ・誰かのために動ける、動けているという実感がある
- ・活動内容の自由度が高い



**長坂**：あとは他の機関との差別化もしたいかも。

**大西**：ワーキャン（ワークキャンプというサークル）に入っている身からすれば、何かやっているレベルは自分的に全然違うのかなとは思う。それぞれ良さはあるけれども、Lab. は学校の教育機関という分、活動自体は学生だけであるよりも本格的な活動ができる。ワーキャンは全て学生主体だからやること全部に学生の責任が伴うからやれる事はもちろん狭まるけど、全学生が主体的にやれる。いいところ、悪い所はそれぞれあります。まあまた別かかっていう風には思っています。10年後は活動の幅と規模が広がってほしいですね！

## Q5 10年後、活動の幅と規模の拡大、認知度を上げるための、一歩として何ができるとおもいますか？

**長坂**：学生の意見、現場の声を聴く。やりたいこととかを聞くこと。

**大西**：1年生から3年生まで一気通貫、風通しが良くなることも大切。

**藤野**：固いついていう空気感を変えたい。私たちが楽しそうに活動している姿、「楽しい！」っていう活動風景が皆に知れわたったら「面白そうだな」って思ってもらえる。それが第一歩かなって思う。421Lab. に「こんにちわ！」って入っていける雰囲気をまずはつくるのが大切かもしれない。

## 短期型地域活動

短期型地域活動とは、長期で行うPJ活動とは違い、1日から数日の短期で行える地域活動です。募集はメーリングリストなどで行っています。

参加者の声

- ・人のために動けている実感があり、とても嬉しかった
- ・自分のコミュニティーが広がっていくことに楽しさを感じることができた
- ・声かけや表情、雰囲気づくりなど自分たちなりに子どもたちとのコミュニケーションを考えて動くことが大切！

短期型地域活動は北九大の

学生であれば誰でもいつでも参加可能！  
詳しくは 421Lab. まで！

必読！

All 9 Generations

歴代リーダー編

インタビュー

421Lab. を支えてきた歴代学生運営スタッフリーダーの先輩方にお話をうかがいました！ 421Lab. での活動は社会に出てどう活かせるのでしょうか。初代リーダーから第9代リーダーまで一気にご紹介しましょう！

## 1st generation

図師 万理子さん



421Lab. で過ごした日々は  
PDCA の訓練機会になっていた

### 現在のお仕事

メーカーにてデジタルマーケティングの分野に従事しています。

### 社会に出て役に立ったLab.の活動、経験

「隣の世界には何が広がっているだろう」という探究心があり、農村・商店街・役所・小学校と様々なローカルの「今」を421Lab.を通して体感させていただきました。そこで出会う「知らなかった世界」は次なる探究心と勉強する意欲を私に与えてくれました。

その根幹は社会人になった今に続いており、会社で難題を渡されようとも、我が子のイヤイヤの理由がすぐ掴めずとも、「次はこうしてみよう」と試行錯誤をちゃんと楽しめている自分がいます。時代の流れといい、子の成長といい、昨日と今日では様変わりすることがあります。それに沿うように会社も進化しますし、自分も変わらなければなりません。当時は意識できていませんでしたが421Lab.で過ごした日々はPDCAの訓練機会になっていたんだと、感謝しています。

01

## 2nd generation

親川 はなさん

### 現在のお仕事

アートディレクター・コミュニケーションディレクターの事務所のマネジメント、現代版組踊（芸能舞台）事務局を経て、現在は、芸能プロダクションのマネジメント（主に事務）をしています。

### 社会に出て役に立った Lab. の活動、経験

421Lab.10周年！おめでとうございます！  
「地域につながる、自分をひろげる」。  
421Lab.は、この言葉通りの場所だなあと感じます。在学時、地域創生学群や421Lab.を通して、たくさんの人に出逢いました。北九州で過ごした時間を想い返すと、全てが懐かしく愛おしいです。この場所での出逢いと経験、気づきや感動が、幾重にもつながり、今の私があります。  
421Lab.は、豊かな経験の種が集まる場所。そして、選んだ種を共に育てる仲間と、優しく見守り、また熱く厳しく導いてくれるかっこいい大人たちと出逢える場所。これから先も、一人でも多くの北九大学生にとって、感動体験の入り口であり続けまうように。と、心から願っております。

02



地域につながる、自分を広げる！

## 3rd generation

前田 輝さん

### 現在のお仕事

公務員です。地元の鹿児島県出水市役所に勤めています。

### 社会に出て役に立った Lab. の活動、経験

まずは10周年おめでとうございます。卒業してからみなさんのPJ活動をSNS等で拝見しており、懐かしむことが多々あります。  
421Lab.でしていることは社会に出ても通用する機会が多いのですが、なによりも数多くの活動を通して「感覚を肥やせる」ことが良かったと感じます。現役時代は、正直なところ、私も強く良いリーダーとは言えず、スタッフをまとめきれていた訳でもありませんでした。しかし、自分なりに考えて悩み抜いた時間や、失敗を糧に成功を自信に繋げたことは、ラボで過ごしたからこそその賜物だと自負しております。  
これから活動の場所や立場は変われども、ラボでの経験はどこかで生きてきますので、コロナ禍で大変かと存じますが応援しております。

03



感覚を肥やせる!!



# 4th generation

新北 春菜さん

## 現在のお仕事

接客業をしています。

## 社会に出て役に立った Lab. の活動、経験

421Lab. での経験の中で特に役に立っているのは、コミュニケーション能力です。学生運営スタッフは北九大の学生と 421Lab. を繋ぐ役割を担っています。地域活動に興味を持ってくれた学生に活動を紹介したり、既に 421Lab. のプロジェクトに参加している学生とも積極的に交流しました。また、421Lab. には 1 日単位から参加できる地域活動もあり、私も多くの地域活動に参加し、色々な世代の方と交流しました。こうした経験の中で培ったコミュニケーションの力は社会に出て仕事をしていく上で本当に重要です。どの仕事でもそうですが、特に私のに接客業を行っていると、コミュニケーションが仕事の様なものです。また、421Lab. での活動では行動力も培いました。この経験もとても役立っています。

04



コミュニケーション能力と行動力

# 5th generation

東原 詩乃さん

## 現在のお仕事

カメラマン。写真スタジオにて七五三や成人式などの記念写真の撮影をしています。

## 社会に出て役に立った Lab. の活動、経験

学生の頃から地域の方や企業の方と関わる機会が多く、社会人としての基本的なマナーをはじめ、多種多様な考え方や知識を吸収することができました。中でも学生運営スタッフの活動を通して 1 番学んだことは、諸活動における「目的」と「目標」を明確にすることでした。現在も仕事をする上で「目的（何の為にするのか）」と「目標（目的達成の為に必要である具体的な手段）」を緻密に考えることにより、適切なプロセスを見出せるようになったと感じています。また、私は人前に立つことが苦手でしたが、学生運営スタッフのリーダーをさせて頂いたことで新しい自分に出会い、挑戦することの大切さを知ることができました。この先も多くの学生さんが 421Lab. を通して、新しい自分と出会えることを願っています。

「目的」と「目標」を明確にする

05

## 6th generation

米村 捺月さん

### 現在のお仕事

メーカーで営業の仕事をしています。

### 社会に出て役に立った Lab. の活動、経験

基本的なことですが、Word・Excelなどの操作や電話対応などの知識があったことで、スムーズに会社の業務に入ることができたと思います。また、外部の人と関わる経験が多かったため、営業として初めて会うお客様とも物怖じせずやりとりができたと思います。

06



物怖じせずやりとりができた

## 7th generation

山口 大斗さん

### 現在のお仕事

株式会社 Works Human Intelligence という企業で、自社システムを購入したお客様のシステム導入プロジェクトのコンサルタントをしています。

### 社会に出て役に立った Lab. の活動、経験

421Lab. では、様々な考えや想いを持った学生や自分と年齢の大きく離れた方々と共に活動をするため、講義とバイト、サークルだけの大学生活では経験を得ることができない貴重な経験を通じて自身の視野を広げることができました。

421Lab. の活動を通じて得られた一番の収穫は、自分に適した人間関係の構築の方法を見つけられたということです。活動に対する強い想いを持ったメンバーと共通のゴールに向かって活動する中で、自分の思考やコミュニケーションの癖に気づき、人間関係を構築する上で気をつけるべきことなどを認識することができました。自分に適した人間関係の構築の仕方を見つけられたことは現在仕事をする中でお客様との関係性を築いていく上でとても役に立っているなど感じています。

07



自分に適した人間関係の構築の方法を見つけられた

## 8th generation

椿 沙耶さん

### 現在のお仕事

コンサルティング(主に病院の経営のサポート)

### 社会に出て役に立った Lab. の活動、経験

社会人になると想像してたよりもはるかに多くの方と接する機会があります。421Lab.でも目上の方と接する機会があり、社会人になったら当たり前のことですが、言葉遣いなどは421Lab.の活動中から気をつけていたので苦労することはなかったです。また、会社で早朝研修という取り組みがあって社員全員持ち回りで業務に関する研修を行うのですが、運営スタッフの活動で何度も人前で話す経験をしてきたので、先輩しかいない研修の中、臆する事なく講師を務めることができています。お客様への提案資料を作る時、運営スタッフで資料を作り、先生方に細部までチェックして頂いた経験がとても生きたものになっていると感じます。

08



目上の方と接する機会

## 9th generation

近藤 晴菜さん

### 現在のお仕事

不動産業界

### 社会に出て役に立った Lab. の活動、経験

421Lab.の活動を通して表現力が身につく、それは就職活動においてとても役立ったと感じています。私は運営スタッフ Lab.Times+ の制作を担当していましたが、読む人にとって分かりやすい紙面づくりはもちろん、取材させていただくときの企画趣旨の説明、制作メンバー同士で完成紙面のイメージの共通理解をする過程など様々な場面で誰かに伝えたり説明する場面が421Lab.の活動の中ではたくさんありました。就職活動で421Lab.の話をしたとき活動に関心を持ってくださった面接官の方もいらっしゃるので、自分の伝え方でこれまでの頑張りが魅力的に見えることもあれば説明の仕方次第で相手にはピンと来なかったこともあったので、就職活動の中でも面接で自分が学生時代頑張ったことを説明する場で421Lab.の活動で身につけた表現力は大変役立ちました。

09

先輩方、ありがとうございました!! 19



表現力が身についた

# No.1

## 先生方からのメッセージ



## 内田 晃先生

地域共生教育センター  
センター長



Q. 内田センター長から見た 421Lab. の魅力は何ですか。

A. 421Lab. をのぞくと常に学生がいて、活動している姿が見えることが 421Lab. ならではの特徴だと思います。また、学生運営スタッフが存在しているという点も非常に大きい。運営スタッフの仕事だけではなく、役割を持ってきちんとプロジェクトの中に入り活動していますよね。運営スタッフはみんなをサポートする役でもあり、自分たちも活動して学びを得ているところが大きな魅力だと感じます。また、教職員と学生の距離も近いですね。421Lab. の運営に関しては事務局の方々も一緒に、親身になって学生の相談に乗っていただいています。空間的な意味だけでなく心理的な意味でも距離が非常に近いのかな。そういうところで学生のサポートもできているところが 421Lab. の大きな魅力だと思います。

Q. 内田センター長から見た 421Lab. の意義とは何ですか。

A. 地域活動に向き合う組織として機能していることが大きな意義だと思います。421Lab. の設立目的は地域の課題を解決すること。そのために大学や学生に何ができるのかということで地域活動をしています。北九州地域は多くの課題を抱えており、ある意味、先進的に他の都市をリードしています。だからこそ、421Lab. が果たす役割も非常に大きい。大学には様々な分野で学んでいる学生と専門の教員がいて、幅広い課題に対応できる。そこが大学の役割だと思います。421Lab. はあくまでも教育施設なので、ボランティアセンターではなく「地域教育共生センター」と名乗っているわけです。地域と共に生きて、教育もやる。学生の学びや成長のために 421Lab. の組織はある。単に学生をサポートする、学生がボランティア活動することが目的ではなく、きちんと教育を念頭に置いているところが 421Lab. の意義だと思います。



# 4 2 1 L a b. MESSAGE from Professor

Q. 地域活動を行う学生に心掛けてほしい、大切にしてもらいたいことを教えてください。

A. 地域のために、地域のことを思って活動してほしいというはあるけれど、ちゃんと自分のために活動してほしい。421Lab. は教育のための組織なので、自分や仲間の学び、成長を意識してほしいと思います。自分で421Lab. の活動に参加して“自分がやっている、やり遂げた”という気持ちも勿論大事だけれど、きちんと自分の学びに繋がっているかというところを意識してもらいたいです。もうひとつは、自分たちがやっていることに対して他者評価を受けてほしい。特に、活動に関わっていない他者からの評価を受けることが大事だと思います。

Q.421Lab. が今後どのようになってほしいか、またどのようにしていきたいか教えてください。

A. 地域に根ざしている企業様とのコラボレーションはこれからも進めてほしいと思います。もう1つは、日頃の活動に加えてもっと海外に目を向けてもらいたい。北九州に閉じこもってはいは体験できないような素晴らしい経験や学びを得たりしてほしい。異文化に触れることのできる海外経験もどんどん増やしてほしい。421Lab. としては海外体験できるような機会を積極的に展開したいと思っていますし、学生さんもトライしてほしいと思います。

Q. 読者の学生へ一言お願いします。

A. 是非一度421Lab. を訪ねてほしい。421Lab. を訪ねて、さらに421Lab. の魅力を知ってほしいと思います。421Lab. があるというのは本学のひとつのウリです。地域創生学群だけでなく他学部であっても地域活動に参加する機会が得られるので、北九大に入ってもらって421Lab. の活動に何かしら絡んでほしいと思います。とにかくLab.times+を読んでいただいて魅力を体感してもらえれば嬉しいです。

Read more



# No.2

## 先生方からのメッセージ



## 坂本 毅啓先生

地域共生教育センター

副センター長

(2019.4~2021.3)



※2020年10月インタビュー

Q.421Lab. 立ち上げ当初の雰囲気や学生の様子について教えてください。

A. 立ち上げ当初は何にもないところから自分たちで作っていくぞという勢いが物凄くありました。所属の垣根なく自分たちで作っていくというのが凄く強くて、取り敢えず何でもやってみようという雰囲気があったと思います。一年目が終わるときに東日本大震災が起きて、当時センター長だった伊野先生が徹底的にやるぞと全体を盛り上げて。当時いた教員の専門領域はあると思うけど、昔はNPOや市民団体とかとのコラボというか連携が多かったです。民間やNPO、市民団体などの相談や繋がりなどで市民活動を盛り上げるぞという雰囲気がすごくありました。それで、僕が学内で異動する5年目ぐらいに色々なことが落ち着いてきて、次の5年のことを考える時期だという話になりました。その頃に企業との連携を強しようってことで僕は基盤教育センターに移りました。地域創生学群には所属し続けたけど基盤に所属を変えて、421Lab. に企業との連携とかが分かる人を入れようってことで人事が起きて、石川先生が来られました。

Q. 就任当時から先生が421Lab. の学生と関わっていく中で大切にされていることはありますか。

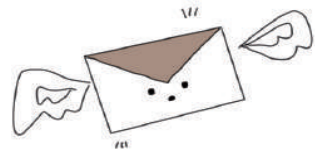
A. 学生のやりたいことをやらせてあげたいと思い、失敗も含めてあえて先回りしないようにしていました。実際やるようになったら色々なことが気にはなるが、失敗して何かあったら謝ってやるからやりたいようにやっただらんといいことは言ってきました。もちろん、こういうことで悩んでますみたいな相談にのるけど、基本的には自由にやりたいこと、やるべきことをしっかりやろうみたいなところは大事にしていましたね。何を大事にしてきたかと言われたらそういう「ゆるさ」であり、失敗も含めて勉強だというのはすごく言ってきた。足跡はしっかり残せとか、失敗も含めて記録に残せとか、そういうことは言ってきました。



# 4 2 1 L a b. MESSAGE --- from Professor

Q. 地域活動を行う学生にメッセージをお願いします。

A. やりたいことではなく求められていることをするべきで、やりたいことは求められていることをすることによって結果的に満たしなさいとは言ってきました。動機にはなるけどそれを目的にはするなということでもありますが、どうしても意欲の高い学生はやりたいことがあるからそこに来ていて、けどそのやりたいことと地域が求めていることは違ったりもします。それをどう調和しながら求められているものにするか、そういう力が必要だと思います。だから是非これからも地域に求められ続けて欲しいし、それにちゃんと答えていって欲しいなと思います。



Q. 読者の学生へ一言お願いします。

A. 今後も引き続き 421Lab. を支えてほしいです。本当に色々な人のおかげで成り立っている組織だと思う。もちろん学生が頑張っているのもあるし、学生を支えてくれる地域、学内教員で色々関わってくれている先生方、皆の為に動いてくれている職員さん、見えない範囲で動いてくれている人たちも多くいるし、そういうのも大事だと思います。そういう方々に対する感謝というはあるし、一緒に作り上げていってほしい組織ではあるので、この Lab.times + を読んでくれている人も 421Lab. を作り支えていく1人として一緒に輪になっていってほしいです。もし先輩が読んでくれたら、是非今の 421Lab. を見に来てください。特に初期のメンバーには是非見に来て欲しいし、当時の思いとか、それが今生きていく上でどこに繋がっていくのかとかあれば是非話に来て欲しいと思います。



# No.3

## 先生方からのメッセージ



## 石川 敬之先生

地域共生教育センター  
新副センター長

(2021.4～)



Q.421Lab. に来た当初のイメージと最近のその変化を教えてください。

A.421Lab. に来た当初のイメージは、運営スタッフをしている学生のレベルが凄く高くて驚いたことを今でも覚えています。こんな大学生がいるんだという感じでした。こういう学生がたくさんいる中で、切磋琢磨しながら成長していく、これが421Lab. なんだなという強烈なイメージがありました。いまは少しずつ見慣れてきたのか、または僕自身の要求水準が上がってきたのか、どちらか分かりませんが、当時ほど、良い意味での驚きみたいなものは少なくなってきました。運営スタッフとしてもっとできるはずという思いがあるのは、正直なところですよ。



Q.421Lab. の学生（運営スタッフ）と関わる中で感じること、思うことは何ですか。

A. 学生運営スタッフの能力が高いことは十分に理解しています。だからこそ、その能力を最大限発揮してもらって、どんどん成長してもらいたいと思っています。そして、そのために厳しく指導することも必要なのかなと思うこともあります。ただ、学生運営スタッフのみんなと関わるうえで一番根っこにある思いは、学生自身が自発性の中で、楽しさとか、充実感とかを覚えていってほしいというものです。だから最終的にはキツく言えずにいるというのが現状です（そうは見えないかもしれませんが（笑））。そして、これが学生の皆さんにとって良いことなのかなと悩んでもいます。





# 4 2 1 L a b.

## MESSAGE from Professor

Q.421Lab. 全体に対する理想。「こうあるべき」というような石川先生個人の思いを教えてください。

A.421Lab. を日本一のボランティアセンターにしたいし、日本の大学の中でのモデルケースにしたいという思いはずっとあります。421Lab. というのは地域社会に対して本当に意味のある活動ができる組織だと思っています。それを可能にする学生がいるし、教職員もみんなで頑張っている。このアドバンテージは絶対に生かさなければいけないと思っています。そして、421Lab. に関わる人たちがみんなハッピーで、ワクワクしながら活動を楽しんで、それが学生全体の成長にもなり、地域社会にとっても貢献になる。さらには421Lab. があることで北九大のブランド力も上がっていく。そういうふうになれば素晴らしいなと思います。



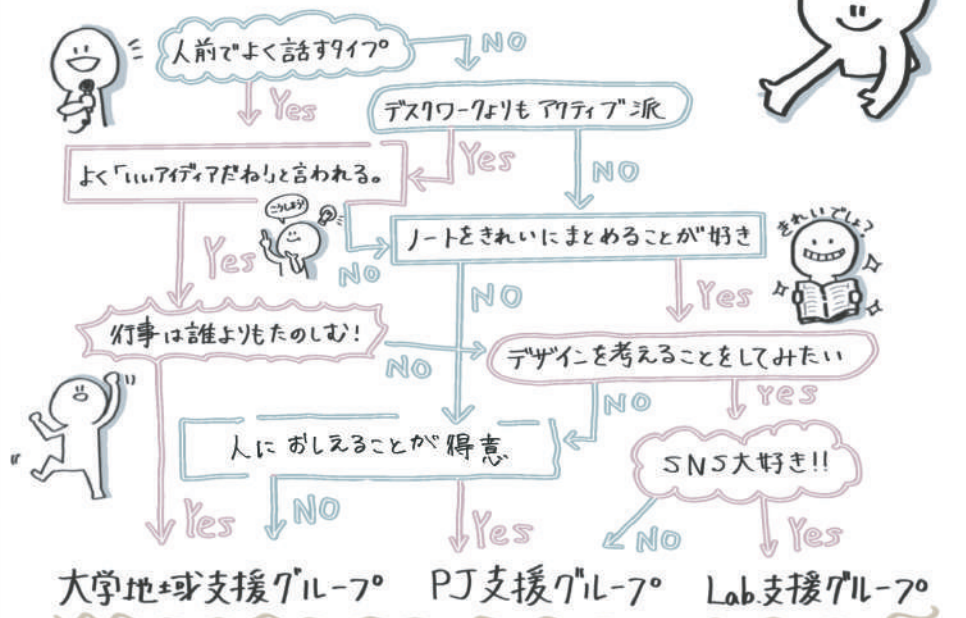
Q.421Lab. で活動する学生たちに一言お願いします。

A.421Lab. で活動するのはすごく意味あることだということに早く気づいて、地域のため、自分のために動き始めてくださいとお伝えしたいです。大学にいて421Lab. に関われる時間は短いです。421Lab. で活動する時間を最大限充実したものにしてほしいと思います。

学生運営スタッフが気になる人のための

# ラボチェック

今回のLab.Times+ vol.9で紹介した学生運営スタッフの3つのグループ「PJ支援グループ」「Lab支援グループ」「大学地域支援グループ」あなたにあうグループはどのかなチェックしてみましょう!!



気に入った方は8ページと2ページをチェック!!

## お問い合わせ先

〒802-8577

北九州市小倉南区北方4丁目2番1号

公立大学法人北九州市立大学

地域共生教育センター(通称:421Lab.)

TEL 093-964-4092 FAX 093-964-4088

ぜひチェックしてね!

●421Lab.HP



●421Lab.公式Twitter



●公式LINE



# 編集後記 =3

「Lab.Times+」 vol.9を手にとりいただきありがとうございます。

本号では、421Lab.の歴史をテーマに、421Lab.を作り上げ、  
支えてきてくださった方々にフォーカスし10年間を振り返りました。

今回、初めて伝える側に立ち、実際に感じた温度感を  
言葉にすることの難しさを学びました。

また、多くの方々に取材させていただき、421Lab.に  
関わってきたみなさんの熱意と421Lab.に対する愛情・誇り  
を感じ取ることができました。

「Lab.Times+」 vol.9を通じて421Lab.について深く知っていただけると  
嬉しいです。

これからも、地域共生教育センター  
"421Lab."がたくさんの人に愛されますように。

「Lab.Times+」 vol.9の制作にご協力いただいたすべての皆様に  
感謝申し上げます。ありがとうございました。





編集：北九州市立大学地域共生教育センター学生運営スタッフ

発行日：2021年12月

発行：北九州市立大学地域共生教育センター（通称421Lab.）

Mail:info421@kitakyu-u.ac.jp